

街

へ出よう！

ト
ラ
ベ
ル
ヘ
ル
パ
ー
が
教
え
る
外
出
の

コツ

)



NPO法人
日本トランベルヘルパー協会
理事長 篠塚 恭一

PROFILE しづか・きょういち

株式会社SPIあ・える倶楽部代表取締役。
平成18年にNPO法人日本トランベルヘルパー
(外出支援専門員)協会を設立。

お墓参りは人気のお出かけ先

長時間の歩行には軽量車いすがおすすめ

お嫁さんと久しぶりに故郷の長崎を訪ねた87歳の宮崎マサさん。6年ぶりの里帰りは、介護タクシーと飛行機を乗り継いでの旅でした。旅の目的はお墓参り。もう無理とあきらめていた夢が叶ったと、感激で目が輝いています。

ところが到着した菩提寺には、舗装もなく傾斜のきつい坂道と長い階段がお墓の前まで続いていました。車いすを頼りに暮らす宮崎さんには、とてもたどりつけそうにありません。

「せっかく、ここまで来たのに…」。うつむく宮崎さんの姿に車内では気まずい空気が流れました。

宮崎さんは、毎年この季節にお嫁さんと旅行することを楽しみにしています。旅行は仕事で忙しい息子からのプレゼントです。「本当は(息子も)一緒がいい」。でも、そんな優しい親孝行の気持ちだけでも嬉しいのです。

お墓参りは、高齢者が行きたいお出かけメニューの上位にいつもランクインします。しかし、多くの地方ではバリアフリー化された墓地は少なく、「本当は行きたいけれど…」と、多くの人があきらめています。

そこでおすすめしたいのが、持ち運びに便利な軽量車いすです。まだまだ自分の足で歩けると自負する人も、長時間の歩行が心配ならば携行をおすすめします。杖もそうですが、初めは車いすの使用を躊躇する人は少なくありません。しかし、福祉用具との上手な付き合いは、高齢者の暮らしに幅をもたせてくれるのです。

車いすは、常時乗らなければいけないものでなく、元気なときには荷物を載せて押してもいいですし、折り畳んで車に積んでおくこともできます。疲れたときにだけ座って押してもらえばいいのです。まずは携行できる移動ベンチとして、気軽に使い始めてはいかがでしょうか。

墓地のように凸凹した道が多い場合には安全が保てますし、慣れた介助者がいる場合ならば、利用したほうが移動も早いのです。観光地になっている寺社ならば、砂利道でも楽に使える太いタイヤの車いすを貸し出してくれるところもあります。

高齢者にとって墓参りとは、ご先祖様との対話の場であると同時に、信仰にまつわる参拝や参詣は日本人が忘れてはならない生活文化であり、こうした暮らしを支える仕組みは、身体が不自由な人にとっても必要なことだと思います。

長崎は坂の町で、お墓も海が見渡せるような眺めのいい場所に多くあります。この町で生まれ育ったタクシーのドライバーは、「それなら私が背負っていきますか？」と自然に声をかけてくれました。

その言葉に居合わせた誰もが胸の奥が熱くなるのを感じました。宮崎さんの思いは、こうして遂げられたのです。

私たちが使う福祉という言葉は、人を幸せにすること。福祉用具は、人を幸せにする道具でないといけません。